

附属札幌中学校「学校だより」

藤 房

北海道教育大学
附属札幌中学校

平成30年1月16日発行

No.11

新春のお喜びを申し上げます

保護者の皆様におかれましては、おすこやかに新春をお迎えのことと存じます。旧年中は、ひとかたならぬご厚情を賜り、誠にありがとうございました。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、先週末より第IV期が始まりました。久しぶりに会った仲間と、笑顔であいさつし、談笑する姿は大変ほほえましく、日常の生活に戻ったなど実感することができました。また、3年生につきましては、初日から期末テストに取り組み、慌ただしさもあつたようでしたが、昨日全教科の受検を終え、ほっと一息しつつも、新たに気持ちを切り替え、上級学校の受験に向かつていこうとする様子からたくましさを感じました。

それでは、新年のごあいさつを、佐々木校長より申し上げます。

新年にあたって

校長 佐々木 貴子

新年あけましておめでとうございます。

今年が平成30年、平成になって30年目という節目の年です。天皇陛下の退位も決まり、新元号の準備やその他種々の準備等で例年とは違う年になりそうですね。

大晦日の最後の最後まで日本中がバタバタとしているのに、一夜明けるとまるで何事もなかったように、辺りに「淑気」が漂う。そんな「どんでん返し」に日本の新年の到来があるように感じます。そして、日常のありふれたことにも、年が改まって、初めて行方際には「初」と冠するだけで、妙に心が引き締まり、清々しい気持ちになるから不思議です。初詣・初売り・書き初め等々。

今年の干支(えと)は戌(犬)です。本来、干支とは十干と十二支の組み合わせを指す語なのですが、今日では十二支のことを指すことが多いようです。犬は、人間にとって最も古い家畜と言われています。そうそう、おとぎ話の「桃太郎」でも、一番先に家来になったのは犬でしたね。犬の嗅覚は人間の100万倍以上と言われており、また聴覚も人間よりはるかに良く、方向感覚にも優れています。さらにリーダーに従い、縄張りを守るなどの習性を持っているため、人間の良きパートナーとなってこられたと言われてます。でも、私はそれだけではなく、犬の健康を考えた食事を与えたり、毎日の散歩をさせたりし



てきた飼い主の愛情が犬へと伝わり、犬もそれに応えるという、お互いの愛情があったからこそ、長い間良きパートナーとして歩んできたのではないかと思います。戌(犬)年にあやかり、私たちも相手を思いやる年にしたいものです。

また、今年が明治維新から150年目。そして、私たちが住むこの地も「北海道」と命名されてから150年目の節目を迎えます。「北海道の名付け親」の松浦武四郎は、江戸時代の終わりから明治にかけて活躍した探検家でした。28歳の時に初めて蝦夷地(北海道)に渡り、その探査を通じてアイヌの人々とも交流を深め、蝦夷地に関する詳細な記録を残しました。そして、アイヌの人々が蝦夷地で安心して暮らしていけるようにしたいという強い思いを持ち、行動したと言われています。先人たちのお陰で、現在、私たちは安心して「北海道」で暮らしていけるのですね。

このようにみえてくると、何だか今年はとても重要な年になりそうです。

皆さんは、今年のご目標を決めましたか。3年生は、あと数か月で高校1年生になります。受験という壁はありますが、乗り越えられない壁はありません。そして、1・2年生は進級して、この附属札幌中学校を支えて行くことになります。みんなで力を合わせて、よりよい中学校を創って行きましょう。

保護者の皆様、旧年中は本校の教育に関し、ご理解とご支援を賜りまして、ありがとうございました。本年も教職員一同、子供たちの健やかな成長を願い、そのために精一杯努力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

生徒会活動の紹介

新役員会・議長団が発足し、約3か月が経ちました。生徒会役員会会長を中心に、各々が立てた公約を意識しつつ、一丸となって活動を本格化させています。また、各委員会・専門局会でも、後期のメンバーで学校生活をよりよくしようと努める姿が見られます。

今回は、生徒会役員会会長の小林さんより活動の状況や今後の取組に向けての思いを語っていただきました。

「終わらない伝統」

生徒会役員会会長 小林 里奈

新役員会・議長団が承認されてから3か月が経ちました。私たちがこの期間、大切にしてきたのは、「行う活動の必要性や行う目的を明確にすること」です。ただ公約に掲げたから、私たちがやりたいから行うのではなく、その活動を行うことで全校生徒の皆さんにとって、どんなよいことがあるのかを考えています。

まず、ノーチャイムコンクール。11月24日からの5日間で行いました。目的は時間意識を高めるということです。チャイムがなくても授業前に着席が出来て、時計を見て行動することで生徒間での時間意識が高まり、授業に余裕をもたせて取り組んでいけるような学校にしたいという思いから始めました。なかには、クラスとしての取組に成果が見られ、自分のクラスの時間意識を他のクラスよりも高めたいという気持ちをもった人も多かったのではないかと思います。しかし、ここで大切なことは目的を見失わない、ということです。時間意識を高めることが目的なので、他のク

ラスに勝つことを一番に考えるものではありません。開始前より今の方が「時間意識が高まった」と自信をもって言えるのであれば、また、それは具体的な取組によって出来たからだと言えるのであれば、目的は十分達成されており、この活動を行ってよかったと考えます。そのような学びをこれで終わらせず、クラスが変わっても今の状態を維持してほしいと思います

次に、特別生徒委員会。ここでの活動は、今所属している活動にプラスし、何か一つのテーマに向かって活動をしていくというものです。この活動においても、その必要性を考え、生徒の皆さんの負担になっていないかなど、役員会からではない視点も大切にしています。さらに生徒の皆さんの多くの意見が反映されるような取組を、これからも目指していきます。

今後に向けては、各々の公約を共有し、その達成に向けて取り組んでいきたいと考えています。また、活動の際、相互の情報の共有を徹底していきたいです。第6回藤華祭では、十分に情報の共有が出来ていないところが何度もあり、失敗を重ねてきました。藤華祭の学びは終わりません。いや、終わらせません。成果や失敗をそのままにしておくのではなく、次に生かす「終わらない伝統」を、役員会から作っていきたくです。伝統というのは自分で勝手に残ってくれません。自分で勝手に新しく出来たりもしません。伝統とは、私たちが残して作るものだと思います。タイトルにある『終わらない伝統』。これは少し日本語がおかしいのかもしれませんが。しかしこの言葉を見れば分かる通り「終わる伝統」もあるということです。ということは、今ある時間意識も、もとに戻るかもしれないし、毎回毎回振り出しに戻るは私の理想ではありません。終わらない伝統を作ります。

これからも生徒会役員会・議長団をどうぞよろしくお願いいたします。

諸活動の結果・表彰

<学長表彰（前期）>

- ・科学の甲子園ジュニア北海道大会 数学部門
第2位 新谷桜子さん（2B） 帯金花帆さん（2B） 二階堂萌子さん（2B）

学長表彰（北海道教育大学附属学校生徒等表彰）は、附属学校の生徒等の健全育成に資するため、生徒等を表彰し、広くこれを顕彰するとしています。その基準として、(1)人命救助やこれに類する行為を行ったもの (2)障害者及び高齢者等に対する福祉活動を継続的に行ったもの (3)環境美化活動、伝統文化の継承、子ども会活動等の地域における活動を継続的に行ったもの (4)クラブ活動、部活動、コンクール等の対外活動において、優秀な成績を修めたもの が挙げられています。今回、科学のジュニア甲子園で全道第2位に輝いた3人が、前期分の学長表彰生徒に選出されました。

<国語科>

- ・北洋銀行・毎日新聞社中学生作文コンクール
優秀賞 高橋 遙さん（2C）
入選 榎本寿美礼さん（1A） 中村莉緒さん（1A）
笹島麻央さん（1C） 敷島里音さん（1C） 白井永遠さん（1C）
吉田かりんさん（2A）
瀧澤理生さん（2B） 森田夕葵さん（2B）
宮崎帆嘉さん（2C）
- ・第63回 札幌市児童生徒席書大会
推薦 久保 遙さん（2C）
特選 増田翔乃子さん（2A）
佐竹柊哉くん（2B） 山崎花帆さん（2B）
金子 海さん（3C）